



趣味と実益

浮田 祐二

8mm カメラを手にしてすでに 10 年、工事記録も何本か撮ってみたものの同じ苦労するなら 16mm のほうがはるかにましであることが、ようやく、わかってきた。

幸い、東京都の退職金の残りがあったので、これをもとので 16mm カメラ、映写機、スプライサーなど、一とおりの道具を買い込んだ。

そして、最初にねらいをつけたのは、月島漁業基地建設工事である。この工事は、その計画、設計とも、自分が立案者であるので、これに目星をつけたのは、また当然といえよう。

それに、この工事は、延長 1600m の岸壁に、わが国土木史上初めての企だてとして、鉄筋プレバクトコンクリート工法を本格的に採用したことが、いっそうその意欲をあおったからである。

撮影は、昭和 34 年 9 月に始まったが、何分にも、危い足場の上からの撮影が多かったのと、イーストマン、カラーフィルムを使用したため、現在はすべて、アメリカへ送る必要があり、片道を空路としても、フィルムが仕上がってくるまでに、優に 6 週間を要する。これでは思ようなカメラ アングルが得られないばかりでなく、

時期的に撮り直しなど思いもよらぬ結果となったので、どの画面も、ぶっつけ本番とならざるを得なかった。

記録映画の製作にあたっては、シナリオ通りに運べないことが多く、最初は、何か役に立ちそうな画面を克明に撮っておき、相当まとまった頃に何度か写して見て、題名に結びつけて行くのが通例であった。

かの「佐久間ダム」にしても、こんな具合にして、撮影を続けたに違いない。したがって、使用フィルムと仕上りフィルムの尺数の比率は、相当大きなものになってくるわけである。

その点、この映画は、土木技術者の手になれるだけに、あらかじめ NG となるような画面は、思いきってセーブしたため、その比率が割合に少なくすみ、3600ft から 2000ft をものにすることができたのである。

しかし、それだけに物足りなさを感じるのであるが、何分にも、忙しい本務のかたわらの余技であってみればそれもあきらめざるを得まい。

ただ、着手以来、2 年 5 カ月にわたる長年月を、独り愛機を手を、危っかしい足どりで、黙々と、撮影をつけ得た幸福感と、NHK の青木先生の良い意味での折紙をつけられた喜びを、せめてもの心の慰めとしている。

(1963. 3. 30・記)

〔筆者：正員 財団法人 東京水産振興会専務理事〕

注：上記月島漁港工業建設工事は本誌 48 巻 3 号 95~96 ページ参照、なお、本記録映画は 会告のように本学会に寄贈されましたのでお気軽にご利用下さい。【編集部】

「読者の窓」欄原稿募集

会員同誌のお互いの連絡を処理し、より学会誌をご利用していただくためにつきの要領によりご気軽に「読者の窓」欄へご投稿下さい。

記

1. 内 容：① 建設機械、測定、実験器具などの譲渡、交換、購入、等の相互連絡。
② ほしい文献、ゆずりたい文献、借用したい文献（設計・実測データなども含む）等の相互連絡。
③ その他、会員に知らせたいこと、言いたいこと、知りたい事項、等。
2. 投稿要項：① 会員資格、勤務先住所、電話番号、年令などをハガキに記入して（特別会員の場合は事業所名、住所、電話番号、担当者氏名）学会編集部へ御送付下さい。
② 登載された連絡事項の交渉、問合わせ、等はすべて当事者間で解決して下さい。学会は直接タッチいたしません。結果については発表しません。
③ 原稿の締切りは毎月 20 日、用紙は原則としてハガキを使用して下さい。編集上さしつかえない限り翌月号の会誌へ登載いたします。

お 知 ら せ

本会正会員 浮田祐二氏より当学会に下記の映画フィルムの寄贈がありましたので、ご利用の向は学会事業課にご連絡下さい。

記

題 名：海に築く壁（月島漁港基地造成工事記録）
16mm、イーストマンカラー、サウンド付 2000ft 全 5 巻 映写時間 55 分
製 作 者：社団法人 東京水産振興会専務理事 浮田遊児（祐二）氏

社団法人 土 木 学 会